

国の大事は祀と戎にあり……いまから約3000年前、殷や周といった王朝が栄えた中国古代では、現代でも再現不可能なほどの高度な鑄造技術によって、さまざまな造形の青銅器が生み出されました。泉屋博古館では、世界最高峰とも称される住友



「鳳柱罍（ほうちゅうか）」 殷後期 前11世紀

コレクションを青銅器館にて展示公開してきましたが、1年間の休館を経て、このたび約半世紀ぶりのリニューアルを迎えます。最新のテクノロジーも駆使しつつ、中国青銅器の魅力をさまざまな角度からご紹介する新生ブロンズギャラリーにて、東洋美術最後の秘境をぜひお楽しみください。



中国青銅器の時代

Sen-oku Hakukokan Museum

BRONZE GALLERY



泉屋博古館
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

「鴟鶚尊（しきようそん）」
殷後期 前13～前12世紀

鴟鶚の姿勢よく立つ姿をあらわした器。尊は酒を容れるための器の一種で、頭が蓋となり、胴部は中空となっている。鴟鶚はフクロウ・ミミズクの類をさす語で、殷代ではこの鴟鶚をかたどった青銅器がつくられ、墓への副葬品としても用いられていた。夜行性の猛禽類という性質を逆手にとって、闇夜を跋扈する邪霊から被葬者を守る役割が期待されていたのかもしれない。
＊展示期間：4/26～5/18（8/9・17）



「虎卣（こゆう）」 殷後期 前11世紀
後肢で立ち上がった虎が大きく口を開け、人を丸呑みにするかのような姿をあらわす。人は赤ん坊のようにみずから虎に抱きついており、その表情には恐怖の感情は読み取れない。この器の造形をめぐっては、虎が人を喰らう姿とも、虎の姿をした神が人間を守る姿とも解釈されており、明確な答えは得られていない。

2025年
4月26日（土）～8月17日（日）
休館日：月曜日、5月7日、7月22日、8月12日
（5月5日、7月21日、8月11日は開館）
開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

「饗飡文方罍（こうはんぶんほうらい）」
殷後期 前12～前11世紀

罍は酒を盛る器で、断面が円形のものと同方形のものがある。宴の場では、この罍に酒を貯めておき、そこから銘々に酒を酌みだしたとされ、肩から底部にかけてはなめらかな曲線を描き、短い頸部の上には屋根のような形の蓋がつく。優美な曲線と鋭い直線的な造形が組み合わさって、中国古代の優れた造形感覚を遺憾なく示している。



太古の奇想と超絶技巧、ここに復活

Sen-oku Hakukokan Museum PREVENT GALLERY



「罍 止罍（あげんしてい）」
殷後期 前12～前11世紀



「饗飡文平底爵（とうてつもんへいていしゃく）」
殷前期 前14世紀

爵は寸胴に三脚がつき、上部は左右非対称形の注ぎ口（流）と尾のついた器で、現在では酒を温めるために用いたと考えられている。胴部には饗飡文がほどこされており、彫りの深い造形は、まだ完成の域に達してはいないながらも、この時期の優れた技術を示している。実は宋代のことで、殷周時代当時の呼び名や用途についてはいまだ多くの謎に包まれている。

▼「夔神鼓（きじんこ）」
殷後期 前12～前11世紀

太鼓を模した青銅の鑄造品で、中空の胴部は四脚で支えられ、上には奇妙な顔をした鳥の飾りがつく。左右の鼓面にはまるで鰐皮を張ったような紋様をあらわし、鉦で留めた様子も表現されている。夔は中国の伝説上の一本足の怪物で、その姿は牛にも龍にも似るとされる。黄帝がこれをとらえ、その皮で太鼓をつくらせたところ、敲いた音は五百里先までとどろいたという伝説が『山海経』に記されている。

中国青銅器の時代

2025年

4月26日（土）～8月17日（日）

休館日：月曜日、5月7日、7月22日、8月12日

（5月5日、7月21日、8月11日は開館）

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

主催：公益財団法人泉屋博古館

後援：京都市、京都市教育委員会、京博連、

公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局、京都新聞

入館料：一般1000円（800円）、学生600円（500円）、18歳以下無料

*学生ならびに18歳以下のかたは証明書の提示が必要です

*20名以上は（ ）内の団体料金、障がい者手帳ご提示の方は無料

*本展覧会の入場料で企画展もご覧いただけます。

*6/10（6/20、8/10）8/17は併設の企画展なし、

本展を一般600円（500円）、学生400円（300円）でご覧になれます。

……「イベント」

●ギャラリートーク「中国青銅器入門」

（予約不要／定員20名／当館受付にて整理券配布）

4月29日（火・祝）、8月9日（土）、午後2時～3時

【講師】山本堯（泉屋博古館学芸員）

【会場】—— ブロンズギャラリー

●トークイベント「関西青銅器サミット2025」

（当館webサイトにて要予約／受付開始：4月15日 午前10時）

6月14日（土）、午後1時30分～3時30分

【登壇者】海原靖子氏（台嶋美術館学芸員）十中川あや氏（奈良国立博物館学芸員）

橋詰文之氏（和泉市久保徳記念美術館副館長）十山本堯（泉屋博古館学芸員）

【司会】—— アートテラー・とにこ

【会場】—— 当館講堂

●講演会「住友青銅器コレクションと泉屋博古館の歩み」

（当館webサイトにて要予約／

受付開始：4月15日 午前10時）

5月3日（土）、午後2時～3時

【講師】—— 廣川守（泉屋博古館館長）

【会場】—— 当館講堂



▲「旌兕觥（げんじこう）」
西周前期 前11世紀

儀式の場で酒や水を注ぐために用いられた器。兕觥は中国最古の詩集『詩経』に登場する酒器の名で、兕は牛の姿をした一本角の化け物、觥はその角でつくった酒杯をさすとされる。殷周時代の呼称はよくわかっておらず、蓋にあらわされた怪獣の正体とともに、謎の多い酒器のひとつ。



▲「饗飡文方彝（とうてつもんほうい）」
西周前期 前11～前10世紀



▶「戈卣（かゆう）」
殷後期 前12世紀

酒器の一種、卣のなかでも鴟鵂卣と呼ばれるタイプのもので、2羽の鴟鵂（クロウ・ミズク）が背中合わせとなった形状につくられる。縄を擦ったような釣手が渡され、胴部に取り付けられたリングに通されている。蓋内面および器内底には「戈」という銘文が鑄込まれていることから、この名で呼ばれている。鴟鵂の死角にあたる部位には、目をもった種々の文様があらわされている。

*展示期間：4/26～5/18、8/9～8/17

「アクセス案内」

京都市バス

●JR・新幹線・近鉄電車「京都駅」／京阪電車「三条駅」から5系統

●阪急電車「烏丸駅」から32・203系統

●地下鉄烏丸線「丸太町駅」から93・204系統

●593・203・204系統「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル

◎32系統「宮ノ前町」下車すぐ

地下鉄「東西線「蹴上駅」から徒歩約20分

●銀閣寺 泉屋博古館

鹿ヶ谷通

市バス宮ノ前町◎

白川通

市バス東天王町●

東大路通

京阪電車

神宮丸太町駅

三條通

三條通

丸太町通

三條通

地下鉄



泉屋博古館

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

〒606-8431
京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

作品はすべて
泉屋博古館蔵
撮影：佐々木香輔